

1. 特別な教育的支援は特別なことではない！

近年、文科省は全国の公立小中学校の通常学級に、知的発達に遅れが無いものの学習面又は行動面で著しい困難を示す子どもが 6.5%在籍すると報告しています（平成 24 年文部科学省「通常の学級に在籍する発達障害の可能性のある特別な教育的支援を必要とする児童生徒に関する調査」）。つまりクラスに 2～3 人、大きな学校であれば 1 学級分の人数です。そして多くの若者が大学に進学する時代を迎え、大学教育においても特別な教育的支援の必要性がクローズアップされています。

また、発達障害者支援法には「大学及び高等専門学校は、発達障害者の障害の状態に応じ、適切な教育上の配慮をする」と記されています。大学でも「特別な教育的支援」は「特別なこと」ではないのです。

2. 発達障害のある大学生は何に困っているか？

発達障害のある大学生の多くから、高等学校と大学の環境の違いに困惑する声が聞かれます。例えば、大学では沢山の科目の中から、各自の興味や必要に応じた授業を選択し計画的に履修すること、個々が異なるスケジュールで授業や自由時間を過ごすことが求められます。これらは一見「当たり前」のことですが、行動のプランニング、つまり「見通し」「段取り」を考えることに困難を抱える学生は非常に難儀します。そこで、学生相談などで履修の助言を行うとともに、「手帳の上手な使い方」などスケジュール管理のスキルの獲得を促すことが望まれます。

そして、学業に悩む学生も珍しくありません。整理整頓が苦手なプリントや物品を必要な時に出せない場合や、注意に困難を抱え「聞き洩らし」や「うっかりミス」が目立つ場合もあります。さらにワーキングメモリー（情報を記憶しつつ処理する機能）に弱さのある場合、講義を聴きながらノートを書くことに非常に難儀する場合があります。また、授業でよく使用されるスライドでは、多くの視覚情報が見せられると「どこを見ていいか」が分からなくなり、苦慮することも

あります。

そこで大学教員の側にも「授業の自己点検」が求められます。大切な連絡を「口頭」（音声情報）だけで済まらず、「文字」（視覚情報）でも伝えているか？ 学生の理解度に合わせて話のスピードや量を調整しているか？ 話の途中で適度なインターバルを差し挟み、学生が頭の中で復唱し、書くスピードの遅い学生が追いつく時間を与えているか？等々です。大学教育に限らず全ての学校教育において、「特別な教育的支援」の第一歩は、教師自身の授業技術の向上にあると言えます。

つぎに、友達関係を築くことに躓き、孤立感や疎外感を抱えている場合もあります。また、「悪気のない一言」で相手を不快にさせたり、「空気の読めない人」という印象を周囲に与えてしまう場合もあります。これには他者の心情や考え及び状況や文脈を理解する「社会的認知能力」の弱さが関連している場合もあります。ですから、こうした特性のある学生にとって、「お前な空気読めよ！」という心無い一言は痛手となります。ここでは、曖昧で漠然とした言語表現は避け、具体的な表現で話し手の意図や心情を語ることが推奨されます。

3. 教育的支援のキーワード

発達障害のある学生は対人関係や学業の失敗体験が多くなりがちです。その結果、不安や抑うつ状態に陥りやすく、“自分を肯定する気持ち”（自己肯定感）や、“やれば出来るぞと思う気持ち”（自己効力感）が低下しがちです。この状態を二次障害と呼ぶ場合もあります。しかし、適切な支援と環境があれば、二次障害を予防・軽減し自己肯定感を高めることが可能です。

それでは、大学教育でどんな支援が必要でしょうか？ そのキーワードは第一に「成功体験」であり、それを学業の中で得るためには、「自分の学びのスタイル」を獲得することです。第二は「居場所と役割」です。高等学校と異なり大学生活は学級集団を基盤としません。それだけに社会性発達に課題のある学生には、趣味や興味を同じくする友人同士の繋がりが重要です。クラブ活動などで一定の役割を担い対等な友人関係の中で受容・承認されるチャンスを見つけましょう。第三のキーワードは「アイデンティティ」です。発達障害の有無にかかわらず、青年期は「自分とは何か？ どう生きていくのか？」を摸索する時期です。ここでは得意や不得意も含めた自己理解を進めることが重要であり、これは以降のキャ

リア教育にも直結します。

発達障害の有無にかかわらず、様々な個性や背景を持つ若者が大学で学び、その可能性を開花させる…。そのことは個々の若者の自己実現のみならず、私達の暮らす社会の未来の多様性と豊かさに繋がっていくのです。

(注意：本稿で紹介した発達障害のある学生の困難は、専門家や臨床家の間でしばしば指摘されているものですが、すべての方に該当する訳ではありません。発達障害の障害の程度や状態は個人差が大きく、ひとりひとり大きく異なることにご留意ください)